



2019年10月18日

中東経済シリーズ ～ドル金利と中東諸国経済～

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 主任研究員 九門康之

ドル金利の低下が中東諸国経済に恩恵を与えている。インフレが低下したトルコとエジプトは、ドルとの実質金利差が小さくなったため、政策金利引き下げることが可能となった。サウジアラビア等通貨ペッグ制の国では、政策金利がドル金利に連動して低下した。

<トルコ>

9月13日、中央銀行が1週間物レポ金利を19.75%から16.50%に引き下げた(図表1)。この引き下げは7月26日に続き今年2度目で、物価が着実に低下していることが背景にある(図表2)。なかでも、原油価格が安定し、食料価格が低下したことが大きな理由である。為替相場が1ドルあたり約5.7リラで小康状態にあることも物価安定要因となっている。

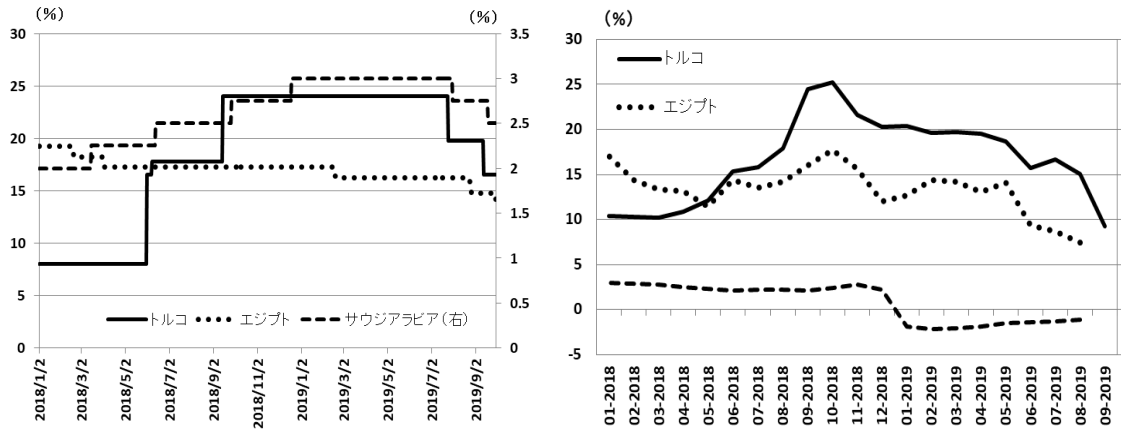
<エジプト>

トルコと同様に9月29日に政策金利を13.75%に引き下げた(図表1)。小麦を輸入に依存しており、エネルギーを自給できていないため、物不足がインフレを誘発する。政府は、国民生活を支えるためにこれまで補助金で食料・エネルギー価格を抑えていたが、2017年以降、IMFの指導により補助金を順次削減すると同時に、インフレ回避のため市場に豊富な物資を供給してきた。インフレが鎮静化したことを受けて、エジプトポンド相場は強めに動いている。

<サウジアラビア>

サウジアラビアでは、ドル金利低下が景気浮揚に直結する。サウジアラビアの通貨リヤルはドルにペッグしているため、リヤル金利はドル金利に連動する。これまで、米ドル金利が高めに推移していた間は、リヤル金利も高めとせざるをえず、結果、リヤルの相対的価値が上昇した。内外価格格差の調整を為替相場で行えないため、物価が低下し、サウジアラビアはデフレに見舞われた。今回のドル金利低下に連動しリヤル政策金利を低下させたことで(図表1)、同国のデフレは解消に向かうと思われる。

図表 1：各国政策金利（左）、インフレ率（前年比、右）

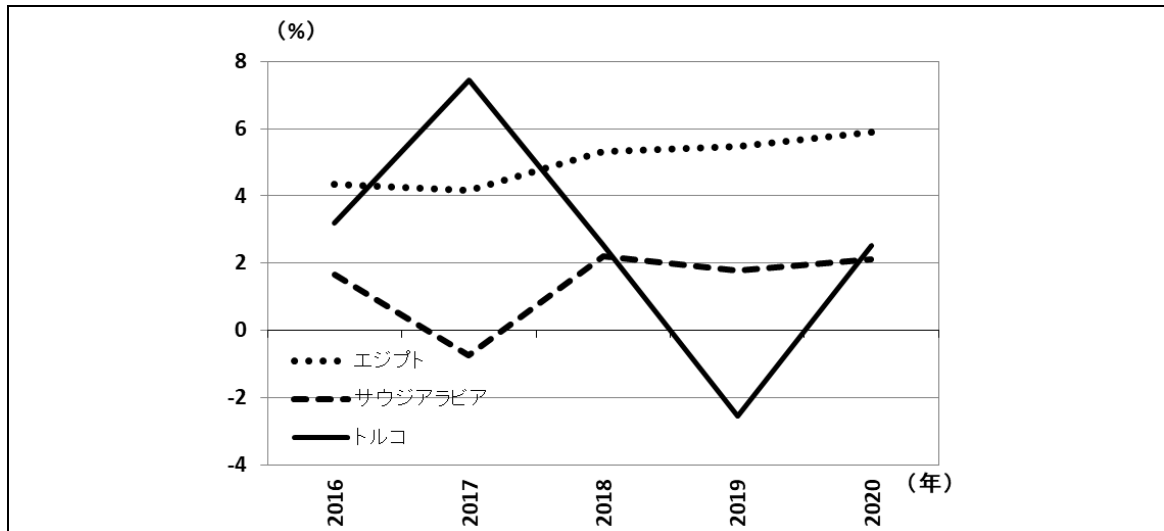


(資料) IMF データ、各国統計より作成

<実質 GDP 成長率>

各国の経済実質 GDP 成長率は、金利水準の低下を受けて概ね上昇に向かうと思われる。トルコは 2019 年のマイナス成長から 2020 年にはプラスに転じる見込み。エジプトとサウジアラビアについても景気は緩やかに拡大に向かうことが予想される。この好環境は経済の構造的強化を実施する好機である。2020 年にかけて各国がどのような政策を打ち出すか注目したい。

図表 2：各国の実質 GDP 成長率（前年比）



(注) 2019、2020 年は IMF 予想

(資料) IMF データより作成

以上